

「奈良市子どもの生活に関するアンケート調査」について

奈良市では、「子どもにやさしいまちづくり条例」※の基本理念の実現に向け、コロナ禍の子どもたちをとりまく現状を把握する観点から、「奈良市子どもの生活に関するアンケート」を5年ぶりに令和3年11月に実施しました。（前回は平成28年実施）。本稿では同調査結果のうち、保護者の経済的貧困と教育格差について紹介します。

※「子どもにやさしいまちづくり条例」…奈良市の子どもたちが今を幸せに生きることができ、将来に夢と希望をもって成長していけるよう、子ども参加によって大人とともにまちづくりを進めることを目的に平成27年4月に施行された。

1. 調査概要

調査目的	奈良市の子どもが今を幸せに生きることができ、将来に夢と希望をもって成長していけるよう、学校や家での生活の様子、将来についての考えや希望、子育て世帯の生活環境・経済状況を把握し、今後の奈良市の貧困対策の基礎資料とすることを目的として実施。			
調査対象	奈良市在住の市内小学5年生の児童とその保護者、および市内中学2年生の生徒とその保護者			
調査期間	令和3年11月5日から11月22日			
調査方法	学校配布・郵送回収			
回収状況		配布数	有効回答数	有効回答率
	子ども	2,000 通	998 通	49.9%
	保護者	2,000 通	1,028 通	51.4%
その他	回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示している。小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合がある。			

2. 分析指標の定義（相対的貧困層分析概要）

絶対的貧困…所得額が人間として最低限の生活水準を維持するのに満たない状態
相対的貧困…所得額が一定の国や地域における平均的な生活水準に満たない状態

本調査では、等価可処分所得※の中央値の半分（貧困線）に満たない世帯を、相対的貧困層と想定する。世帯人数と可処分所得※の回答のみで相対的貧困層と非相対的貧困層を区分しているため、相対的貧困層に該当した世帯すべてが実際の生活に困難を抱えているものではない。

※等価可処分所得…世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した所得。世帯の1人当たりの所得額。

※可処分所得…所得から税や社会保険料等を除いた、いわゆる「手取り収入」

同アンケートより、等価可処分所得の中央値259.8万円と中央値2分の1である貧困層129.9万円を基準として設定した。その結果、奈良市の相対的貧困率は「ひとり親世帯」では56.1%と、全世帯より39ポイント高いことが窺える。

【奈良市の相対的貧困率（アンケート調査より）】

	相対的貧困率
全世帯	17.1%
ひとり親世帯	56.1%

※ひとり親世帯は「母子世帯」「父子世帯」を対象

出典：「奈良市子どもの生活に関するアンケート調査」を当研究所にて一部加工（以下同じ）

3. 調査結果

（1）【子ども調査】

①いやなことや悩んでいることについて

非相対的貧困層に比べ、相対的貧困層で「学校や勉強のこと」「進学・進路のこと」の割合が高くなっている（図表1）。

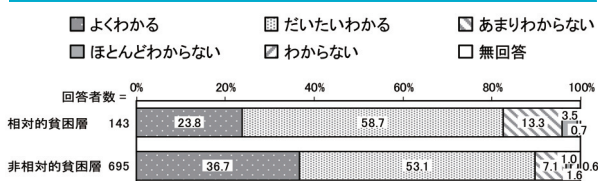
図表1：あなたは、いやなことや悩んでいることがありますか。

区分	回答者数（件）	家族のうちのひとこと・家	学校や勉強のこと	クラブ活動のこと	や自分（外見）	ともだちのこと	好きな人のこと	進学・進路のこと	その他のこと	いやなことはやない	無回答
相対的貧困層	143	6.3	25.2	9.1	16.1	17.5	5.6	23.1	2.8	49.0	—
非相対的貧困層	695	7.3	20.1	7.2	18.6	14.4	5.3	19.4	3.2	53.5	2.0

②学校の授業の理解度について

相対的貧困層で「あまりわからない」「ほとんどわからない」「わからない」を合わせた割合が17.5%となっており、非相対的貧困層の9.7%に比べ高くなっている。一方で非相対的貧困層では、

図表2：あなたは、学校の授業がどのくらいわかりますか。



「よくわかる」「だいたいわかる」を合わせた割合が 89.8% となり、相対的貧困層の 82.5% より高くなっている（図表 2）。

③将来の進学希望について

非相対的貧困層に比べ、相対的貧困層で「高等学校」の割合が高くなっている。一方、相対的貧困層に比べ、非相対的貧困層で「大学」の割合が高くなっている（図表不掲載）。

（2）【保護者調査】

①経済的な理由で経験したことについて

非相対的貧困層に比べ、相対的貧困層では「子どものための本、服や靴を買えなかった」「子どもにおこづかいを渡すことができなかった」「子どもを学習塾や習い事に通わせることができなかった」「子どもに誕生日プレゼントやお年玉をあげることができなかった」「家族旅行（日帰りを含む）ができなかった」の割合が高くなっている（図表 3）。

図表 3：あなたの世帯では、概ね 1 年の間に、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。

単位：％														
区分	回答者数（件）	子どもを医療機関に受診させることができなかった	子どものための本、服や靴を買えなかった	子どもにおこづかいを渡すことができなかった	子どもを学習塾や習い事に通わせることができなかった	子どもに誕生日プレゼントやお年玉をあげることができなかった	家族旅行（日帰りを含む）ができなかった	その他	経験したことがない	無回答				
相対的貧困層	148	4.7	3.4	13.5	12.2	0.7	2.0	20.3	3.4	10.8	29.7	—	45.3	14.2
非相対的貧困層	718	0.3	1.3	1.9	2.4	—	—	5.4	0.1	0.8	11.8	1.5	68.1	15.2

②自分に関する悩み事について

非相対的貧困層に比べ、相対的貧困層で「生活費に関すること」「子どもの養育にかかる費用に関すること」の割合が高くなっている（図表 4）。

図表 4：あなたは、現在、ご自身の生活に関して、どのようなことに悩んでいますか。

単位：%													
区分	回答者数 (件)	生活費に 関すること	子どもの 養育にか かる費用 に関す ること	仕事に 関する こと	住宅に 関する こと	健康に 関する こと	対人 関係に 関する こと	老後 に関す ること	家族に 関する こと	子ども に関す ること	その他	特に悩 んでいる こと	無回 答
相対的貧困層	148	45.3	52.0	27.7	19.6	23.0	6.1	35.8	16.2	34.5	1.4	14.9	0.7
非相対的貧困層	718	21.2	34.8	26.9	8.1	22.4	6.7	23.4	14.1	35.8	1.8	22.3	0.3

③将来の子どもの進学希望について

将来の子どもの進学希望については、【子ども

調査】とほぼ同じ割合となっている。また、子どもが保護者の希望通りの学校へ進学できない理由を聞いたところ、「子どもの学力を考えて」や「経済的な余裕がないから」と答えた保護者の割合が高くなっている（図表不掲載）。

④現在、自分が必要としている支援について

非相対的貧困層に比べ相対的貧困層では「資格取得のための支援が受けられること」「就職のための支援が受けられること」の割合が高くなっている（図表不掲載）。

子どもの貧困は、家庭の状況と密接に関わっており、特に「教育」については、保護者の経済状況が子どもの学習環境に大きく影響すると考えられる。本アンケートから「相対的貧困層」世帯の子どもたちは、「非相対的貧困層」世帯の子どもたちに比べて学校の授業への理解度が低いことがわかった。また保護者へのアンケート調査では、「相対的貧困層」世帯において、経済的な理由から子どもを学習塾や習い事に通わせることができなかった世帯が多いことから、「教育格差」に保護者の経済力が関係していることがわかる。このような「教育格差」は、コロナ禍による保護者の失業や収入の減少などにより、一層厳しさを増している。

SDGs（持続可能な開発目標）における「1. 貧困をなくそう」、「4. 質の高い教育をみんなに」を実現するためには、子供たちが生まれ育った家庭の経済状況に関わらず、将来への夢と希望を持ち、自らの力で未来を切り開き成長できる社会環境を整えることが重要だ。また子どもの貧困問題は、保護者の貧困問題でもあることから、誰一人取り残さない社会の実現に向けた課題解決の 1 つとして、今後は家庭への経済的支援とともに保護者への就労支援やビジネススキルの習得支援、必要な支援が必要な人に届くように複数の機関が相互に連携して対応するネットワーク支援体制の整備も必要だ。

（村井 渚）